

施策31 情報収集・通信指令体制の充実

施策における目標

大規模災害等における迅速・的確な情報収集体制と高度情報化に対応できる通信指令体制を確立します。

施策概要

119番受信から迅速・的確に対応できる通信指令体制の整備。

想定される主な取り組み

携帯、IP電話からの緊急通報における位置情報収集体制の構築と消防無線デジタルの移行に向けて詳細な検討を行う。

第2期実施計画における総評

・平成16年度から平成18年度までに通信指令装置更新事業として通信指令装置を更新し、119番受信から現場到着までの時間短縮と災害発生時の迅速・的確・効率的な指令、情報収集体制の整備と市民への情報提供を行うことが可能となり、消防救急情報収集、通信指令体制の充実が図れた。

施策32 救急・救助体制の充実

施策における目標

複雑・高度化、かつ大規模化する災害事象に迅速・的確に対応するため、救急・救助体制の充実強化を図り、地域住民の安全の確保と救命率の向上をめざします。

施策概要

高度な救急・救助資器材の整備、救急時における市民の救命率を高める救急救命士の養成。

想定される主な取り組み

・AEDを使用した救命講習を開催し、市民等の応急手当の普及啓発を図る。
 ・高規格救急自動車や高度救命資器材を整備、消防相互の広域的な応援体制により、救急・救助体制の充実を図る。
 ・救急業務の高度化に対応するため、救急救命士の計画的な養成を行うとともに、救急活動の事後検証と気管挿管等の教育研修体制の充実強化を図り、救命率の向上を図る。

第2期実施計画における総評

・救急件数の大幅増加(対比平成17年/平成14年 129.5%)が示すように、市民の救急需要がますます高まる傾向にある中、救急業務の高度化、処置拡大(平成15年4月以降、順次、医師の指示なしでの電氣的除細動(電気ショック)の実施、医師の指示下での気管内へのチューブの挿管と薬剤投与ができるようになった。)に的確に対応できるよう資器材の整備及び救急救命士の計画的な養成が行えた。

・救命講習の受講者数については、平成17年末累計で9,895名と年々増加しており、応急手当の普及啓発に寄与してきた。

・今後は、市の施設及び民間の事業所にも、AEDが設置されていく中、引き続きコミュニティFM放送(タッキー816)あるいは広報紙もみじだより等を通じて、AEDを使用した救命講習の受講を呼び掛け、更なる救命率の向上をめざすためにも、バイスタンダー(現場に居合わせた人)の育成に力を注ぐ必要がある。